コロナウイルス文献情報とコメント(拡散自由)

2023年8月11日

新型コロナワクチン接種後の病休対策（ワクチン休暇など）が必要

【松崎雑感】

新型コロナワクチン接種後の副反応により、3分の1のヘルスケアワーカーで、1～3日の病欠が必要のようだというデータです。ワクチン接種による発熱や倦怠感を原因とした体調不良により、業務を休まざるを得ない場合は、業務に関連した原因による病休として、「ワクチン休暇」の制度を作る必要があると思います。土日が休みの場合、金曜日にコロナワクチンを接種する方が多いようですが、それだけでは、ギリギリの人員配置で切り抜けている医療と介護施設では、限界があります。「ワクチン接種の翌日はワクチン休暇」という制度が可能となる「ため（余裕）」のあるヘルスケア行政が進められることを望みます。

松崎道幸　道北勤医協ながやま医院　matsuzaki-m@dohoku-kinikyo.or.jp

新型コロナワクチン接種後の病休対策（ワクチン休暇など）が必要

Reusch J, Wagenhäuser I, Gabel A, et al. Inability to work following COVID-19 vaccination-a relevant aspect for future booster vaccinations [published online ahead of print, 2023 Aug 8]. *Public Health*. 2023;222:186-195. doi:10.1016/j.puhe.2023.07.008

目的

ワクチン接種は新型コロナ感染と重症化を防ぐカギとなる予防対策である。しかし、接種後の副反応による病欠が、どの程度ヘルスケアシステムに負荷をもたらしているかを知る必要がある。

方法

ドイツのCoVacSerコホート調査の一環。新型コロナワクチン接種副反応によるヘルスケアワーカーの一時的病欠の頻度と必要とされた治療を調査した。電子メールによる質問票調査。

結果

新型コロナワクチン接種後病欠したヘルスケアワーカーは、1704名の回答者中、593名（34.9%）であり、合計1550日の病欠日数となった。

ワクチン接種回数が増えるにつれて、病欠率と病欠日数が有意に増加していた。

2回目接種までは、ファイザービオンテックワクチンとモデルナワクチンの病欠率の差は見られなかったが、3回目ではモデルナワクチンの病欠率が明らかにファイザービオンテックワクチンよりも増加していた。

結論

今後、新型コロナワクチンのブースター接種後の一時的病欠リスクはさらに高くなると思われ、ヘルスケアの人手不足が悪化し、必要なケアが提供できなくなる恐れがある。

今後の新型コロナワクチン接種キャンペーンでは、この点をどう克服するかを検討する必要がある。